

<b>学校教育目標</b>		<b>重点目標(中・長期的目標)</b>
生きる力の育成と地域を担う人間づくり		
①共に生きる力を養う(自己理解・他者理解を含め、他者と共存していく力を高める) ②夢をかなえる力を鍛える(問題解決能力とともに、社会性及び人格を向上させる) ③地域と関わる力を育む(地域への関心を高め、理解し、積極的に関わる力を育成する)		①地域からの信頼を高め、地域を担う人材を育成する ②人間としての在り方、生き方を深める教育を展開する
<b>今年度の重点目標</b>		
I 基本的な生活習慣の確立及び定着とともに、体験学習を通して自尊感情や規範意識を育成する II 計画的な進路指導を実践する III 地域に活動をアピールし、理解を得る IV いじめ・体罰のない、明るく安心な学校をつくる V 授業改革の取組を実践する		
<b>総合評価</b>	<b>成果と課題</b>	<b>改善策と向上策</b>
生徒指導上の課題はあるが、生徒の自律を促しながら、予防する指導を粘り強く行い、多くの生徒は落ち着いた環境の中で学校生活を送ることができている。また、自尊感情の育成、キャリア形成につながる体験学習を計画的に実施することができた。授業改善の取組では、授業規律の確立・定着に併せて、生徒の探究的な学びにつながる授業内容や指導方法について研修を行った。ホームページの定期更新、石楠花通信の発行、茅野高フォーラムでの生徒発表や地域の方との意見交換会等、教育活動の情報発信、広報も工夫して取り組んだ。	教育活動や生徒の活動状況を積極的に発信し、地域や中学校に一定の理解は得られているが、地域へ浸透させていくことが課題である。授業改善の取組では、全職員が生徒の探究的な学びにつなげる必要性は理解できているが、日常の授業で継続的に実践するには情報共有や研究が引き続き必要である。キャリア教育の一環となっている地域での体験学習、信州学等を通して、人間力を育成し進路に対する意識をさらに高めることが課題である。	生徒の探究的な学びにつながる、またICTを活用する授業改善に向けた研修・研究を引き続き全職員で行う。また、生徒の問題解決能力や社会性を向上させる取組、キャリア教育の一層の充実に向けて、地域での体験学習の改善を地域の方々とも協力して検討していきたい。

1 教育活動について

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策と向上策
教育課程	現教育課程の点検及び新しい教育課程の検討	・現教育課程の点検及び新たな教育課程編成の検討をすることができたか。	現教育課程で変更すべき点、及び来年度入学生の一年次から三年次までの授業展開を検討した。	新教育課程に関しては、現状で考え得る案を作成したが、入学生数や生徒の希望、そのときの状況に合わせるため今後も検討が必要である。特に通級的指導に関わる授業展開は、生徒相談係りとも協力し検討することが必要。
学習指導	学習環境の確立と きめ細かな学習指導の実践	・授業向上週間を設定するなどして、基本的な学習習慣と学習環境の確立に向けて努力できたか。 ・授業及び学習環境のユニバーサルデザイン化に取り組むことができたか。 ・生徒の探究的な学びにつながる教員の授業力の向上を目的として、授業公開を実施できたか。	・授業向上週間は4月、6月、8月、10月、1月の年5回行った。週間中は朝のTT指導を実施し、服装と学習習慣の改善ができた。 ・特別なことは行えなかったが、本校職員が日々の授業のなかで創意工夫していることに中にも、ユニバーサルデザイン的な取り組みが多く含まれていることを共有できた。 ・春秋に加え、12月にも公開授業を行った。事前申込要としたことでスムーズな対応ができた。また、初任研をメインとした授業研究を行い、教員相互の研鑽に役立てることができた。	・授業向上週間中は各教室での声かけを行い、学習習慣改善の成果があった反面、指導が行き届かない部分もあったので、今後指導内容の検討も含め、改善をしていく必要もある。服装の指導については、未だ不十分な点もあるので、今後も引き続き指導を行ってきたい。 ・現在行っていることを、個々人の創意工夫にとどめず、学校全体・教科全体としての組織的な取り組みとして行きたい。 ・教員相互の研鑽は、特別な期間を設けなくても可能であるので、日々の学習活動の中で実施できれば良い。地域等に対しては、今年度の様に行事等を活用して行くと共に、中学生向けの公開日を検討していきたい。
特別活動	生徒会活動の活性化	・生徒会役員に自治意識を涵養し、生徒自身がリーダーシップをとって全校を牽引していくよう指導することができたか。 ・生徒一人一人が、生徒会の構成員である自覚を持ち、委員会活動や行事などに積極的に参加する姿勢を身につけることができるよう指導できたか。	・様々なイベントや行事に中心的な役割を果たすことで、生徒会役員生徒は自治意識を高め、主体的に行動して聞く意識を高めることができた。また、そういった経験を積んだことで生徒の自信に繋がった。 ・全校生徒に関しては、生徒総会などの集まりをみても、まだ自分にとって無関係と考える生徒が少なくない現状がある。後期生徒会では、各委員会委員長副委員長がそれぞれの委員会の後期活動で行う新たな取り組みを考え、実施に移せるよう計画をたて実施した。	・生徒会役員生徒がよりリーダーシップを発揮できるよう、成長を引き出せるようにしたい。 ・役員生徒はどの行事やイベントでも全校生徒の中心的な役割を頑張っているが、こういった動きに全校の生徒が関わっていけるかどうかは課題である。 ・この点を改善するために、それぞれの委員会の属する委員たちがそれぞれ仕事を何か担当するよう、委員長たちが計画をたて、実施に移し始めた。この動きを職員全体で支援し、多くの生徒が参加できる生徒会活動にしていきたい。
生徒指導	社会性、協調性及び正しい判断力の育成と主体的な行動の促進	・社会のルール、マナー及び規律を遵守させることができたか。	・全職員で校門等での朝の挨拶運動、昼の立ち番や巡回を行った。 ・これの成果として、朝の遅刻者や昼休みの外出者は激減している。	・各ホームルームや学年集会等でも積極的に生徒に話をし、粘り強く伝えていく努力をする。 ・各授業においても、基本的な生活習慣や学習習慣を身につけさせるのと同時に、他者との関わり合いにも配慮しながら、教科担当者が工夫していく。

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策と向上策
生徒指導 (続き)	生徒・保護者・地域社会との信頼関係の構築	・家庭や地域と連携を図った指導をすることができたか。	・PTAの諸会合、学校評議員会、諸会議等で本校の生徒指導の基本的な考え方、近況や課題を伝え、理解と協力を求めた。事例発生時、各担任から迅速な家庭連絡が行われ、指導へ円滑に移すことができた。	・服装・ゴミのポイ捨て・自転車の乗車マナーなどについて、地域のみならずから苦情をいただき、誠実に速やかに対応することに努めたが、改善は難しかった。もっと生徒会活動などを通じて生徒に呼びかけを行っていきたい。
	個のニーズに応じた手厚い指導	・関係機関等と連携し、個のニーズに応じた指導・支援ができたか。  ・特別支援教育に充実に向けた校内体制の構築や職員研修ができたか。	・支援の必要な生徒に対する特別支援教育支援員及びスクールカウンセラーによる面談については迅速な対応ができ、継続的なソーシャルスキルトレーニングも実施できた。必要な生徒に対しては行政機関やSSW,医療との情報交換もでき、就労支援も行った。また新入生を対象とした学力スクリーニングテスト、全員面談も実施できた。 ・毎週の学年会・係会によるチーム支援の体制は整ってきた。 ・特別支援教育研修会を1回行った。	・新入生に関する情報交換を中学校とより密度高く行えるようにする。 ・課題を抱えた生徒の情報を一元的に管理し、必要ときに情報共有できるようにする。 ・新入生のスクリーニングテスト・面談の結果の有効活用を考える。  ・支援員、スクールカウンセラーと連携した体制は出来上がりつつあるので、今後は職員個々のスキルアップのための研修により重点を置いて行きたい。
進路指導	生徒の多様な進路希望への対応	・計画的な進路ガイダンス、小論文(作文)指導、面接指導、補習を実施できたか。	・生徒1人1人が多岐の進路選択から自分に合った道を選べるよう、進学就職を織り交ぜたガイダンスや見学を計画し努めた。小論文・面接指導は、多くの職員が関わり生徒の特性を引き出しながら対応できたと感じる。	・今年度は進学希望者が多く、補習や学力向上など個々の状況に応じて個別対応した。その反面、全体的に基礎学力やコミュニケーション力の低下により、就職試験において苦戦したケースがあった。生徒の進路意識の向上と、基礎学力を補いながら進路実現に結びつくよう検討していく。
		・就職に役立つ情報を提供し、事業所見学を奨励することができたか。	・今年から、2年生の2月にの諏訪圏の企業説明会が実施されることになり全員を参加させた。早い段階から就職を意識することができ今後の会社選択の役に立った。	・企業との交流を増やすと同時に、卒業生や先輩から直接就職活動の様子や会社の様子など話を聞ける機会も増やし、生徒が積極的に質問を投げかけられる場を更に設けていく。求人票の見方の指導を徹底し、学校からの情報を生徒が理解できるように力をつける。また、保護者にも子供と会話をもち、子供の進路希望や、進路活動の様子を知ってもらう必要性を強く感じる。
		・進学先に関する情報を提供し、積極的に学校説明会・オープンキャンパス等に参加させることができたか。	・様々な業者による学校説明会、オープンキャンパスに参加させることが出来た。進路揭示、保護者懇談会など、保護者に対しても、情報を発信することが出来たと感じる。今年度は県外への進学者も多く、奨学金説明会も行った。	・教職員対象の学校説明会や、校内進路ガイダンスに参加いただく学校との情報提供を、最新の情報として生徒に発信、更新していくことが大切。 ・2学年の頃から、奨学金や特待生、指定校生の説明は理解を求め、計画的に進学に向けての準備が出来るようサポートする。
	キャリア教育の推進	・体験学習等を計画的かつ効果的に実施できたか。	・体験学習をはじめ、施設体験、学校・職場見学、様々な進路に触れる機会から、工業メッセやマナー講習会、最終的に高校生企業説明会までスムーズに繋げてこられたと感じる。1月から、就職支援員による2学年の就職面談をしているので、この結果も来年度に繋げていく。	・茅野高フォーラムで、各学年より、総合学習やキャリア教育を通して何を学び、いかに下の学年に学んで欲しいか伝える取組をした。実際に先輩から聞く体験談は教員の話よりも生徒に響いた様で、今後も生徒への発信の仕方を多様に考えて行く必要がある。また、コミュニケーション力、会話能力の低下については、今後も大きな課題として、ワークショップや面談を多く取り入れるなど機会を増やししながら指導する必要もある。

## 2 学校運営について

地域との連携	地域への広報活動	・ホームページや茅野高フォーラム等での情報発信や、中学校での説明会が実施できたか。  ・ホームページの定期的な更新ができたか。	・「熱鉄教室」は夏の体験学習で実施した。少しずつ参加者が増えた。コース制の変更については、12月の学校説明会で行ったが、その後の周知が難しかった。「石楠花通信」は2年目を迎え、2回発行した。生徒の活躍や学校活動がより伝わりやすいよう、記事の工夫ができた。 ・ホームページをこまめに更新できた。	・茅野高フォーラムで地域の方々のお話を伺うと、本校のイメージも大分変化してきたように感じる。これを機会と捉え、生徒会や部活動などで地域へ出て行く活動を増やし、その取り組みを情報発信していくことが必要であろう。中学生への広報活動も、その延長にある。 ・ホームページの更新をしやすいようなコンテンツを設けるのも効果的かと思われる。
	地域の人材、施設の利用	・総合的な学習の時間や、福祉保育コースなどの特色ある授業への協力要請・外部講師の依頼、また、部活動等への指導要請ができたか。	・就業体験、校外施設体験、福祉体験等に加え、今年度は新たに信州学の取り組みを、1・2年生で行った。地元で活躍されている様々な職業の方とつながりいただくことができた。保育コースでは新たに小学校との連携授業を行った。	・地域の方の御協力を仰ぎ、さらに連携を進めていきたい。 ・いずれの取り組みも、事前学習が大きなポイントになる。講師を迎えて学ぶ、地域へ出て行って体験するなどの場合によって必要な知識やスキルがある。目標と心構えを丁寧に準備することで得られる成果も変わってくるので、より計画的な取り組みが求められる。
校内研修	校内初任研の実施	・校内研修や学校視察等を実施できたか。	・特別支援教育研修、生徒育成方針等の3つの方針及び探究的な学習に関する研修、県内校の研究授業への参加も積極的に行われた。本校での研究授業は、初任者の公開授業に併せて実施した。	・生徒の探究的な学びを目指す授業研究と実践は引き続き実施していく必要がある。また、授業へのICT活用についても、初任者を中心としながら全職員が積極的に取り組めるよう、研修等を計画する必要があると考える。